

最近の本学の取組等について
2025.10 ～ 2025.11

活動報告

1. 2025 年度キャンパスミーティング

このミーティングは、学長、理事、副学長をはじめとする大学関係者 7 名と学生が自由に意見交換を行い、それを通じてより良い大学づくりを目指すことを目的として、毎年開催されています。

当日は「授業・学習」「学内設備等」「授業料」について、大学執行部と 1 時間半にわたり直接対話が行われました。

対話後、学生からは「大学運営について、適切に議論が行われていると感じました」「学生の意見を真摯に受け止めているように感じました」といった意見が寄せられました。一方で、今後の開催に向けた改善点についても意見が寄せられました。

今回の学生との対話で得られた意見をもとに、より良い大学づくりを目指した運営が期待されています。

日時：2025 年 9 月 24 日（水）15：00～16：30

場所：名古屋工業大学 NITech Hall 2 階 ラーニング・コモンズ（EPSON STUDIO10）

参加学生数：41 名



2. 次期科学技術・イノベーション基本計画セミナー

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局との共催で「次期科学技術・イノベーション基本計画セミナー」を開催しました。本セミナーでは、産学官金連携による社会課題の解決やイノベーション創出の方向性について議論が行われました。

冒頭では、内閣府総合科学技術・イノベーション会議有識者議員の梶原ゆみ子氏が来賓挨拶を行い、ものづくりを支える科学技術政策の重要性について述べました。続いて、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 参事官（統合戦略担当）の永澤剛氏が「科学技術・イノベーション政策について」と題した講演を行いました。

後半の総合討論には、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局の参事官補佐（統合戦略担当）水井健太氏、上席科学技術政策フェローの中山忠親氏のほか、本学から田中由浩教授、櫻井祐子教授が登壇し、次期科学技術・イノベーション基本計画に係る論点について議論しました。参加者からは博士人材の活用や国際頭脳循環についての意見も寄せられ、活発な議論が展開されました。

日時：2025年10月1日（水）14：30～16：50

場所：名古屋工業大学 NITech Hall

参加者数：（企業関係者や学内の教職員・学生等）約 250 名



来賓挨拶をする梶原ゆみ子氏



講演をする永澤剛氏



総合討論で意見を述べる参加者

3. 女子学生のためのテクノフェスタ

本学 OG による講演会や現役女子学生との座談会、学内ツアー、保護者説明会を実施しました。

日時：2025 年 10 月 4 日（土）10：30～13：00

場所：名古屋工業大学 NITech Hall

対象者：高校 1～3 年生及び既卒者

内容：

- ・講演会

タイトル：「名工大からつながる理系女性のキャリア～巻き込み力で切り開く、私の仕事と暮らし～」

講師：トヨタ自動車株式会社 デジタルソフト開発センター コックピット製品開発部 IVI 製品開発室 4G 滝崎 綾子 氏

- ・座談会（学科毎）

- ・校内散策

- ・保護者向け説明会

参加者数：約 200 名



講演会



座談会

4. 文部科学省 成澤卓俊課長補佐による講演

2025 年 10 月 14 日（火）に文部科学省高等教育局国立大学法人支援課の成澤卓俊課長補佐を招き、「国立大学法人等の機能強化に向けた検討会」で示された「改革の方針」をテーマに講演を実施しました。講演には、学長、理事、副学長などが参加しました。

講演ではまず、2040 年に向けて 18 歳人口が急速に減少する見通しの中で、理工系人材の需要に対して理系進学率が低い現状や、地域産業への影響について言及されました。そして、「各国立大学法人が高等教育を取り巻く課題や将来の人材需要、自らの役割について地域全体で認識を共有することが重要である」と強調されました。

続いて、「改革の方針」で提案された学部定員の見直しや大学院への重点化などに触れ、「地域の実情を踏まえた組織の見直しが求められる」と説明されました。講演後には、大学組織の見直しに関する活発な質疑応答が行われました。

また、講演に先立ち、成澤課長補佐は本学の 3 研究室を視察されました。電気・機械工学類の湯川助教の研究室では、感覚刺激を用いたドラム演奏のサポートシステムについて説明を受けられました。



講演する成澤氏



研究室にて説明を受ける成澤氏

5. 大学改革支援・学位授与機構 服部泰直機構長による視察

2025 年 10 月 21 日（火）に大学改革支援・学位授与機構の服部泰直機構長をはじめとする一行が本学を訪問しました。

学長、理事などと、地域産業界と連携した教育研究や人材育成について意見交換を行い、その後キャンパス内に設置されたインスタントハウスと3つの研究室を視察しました。

一行はインスタントハウス内で居住性を体験しながら、北川教授から被災地での支援活動や復興に向けての課題、さらには今後の研究計画について説明を受け、服部機構長からも期待が寄せられました。

研究室視察では、通信の高信頼化技術、触覚の情報化を通じた感覚運動支援、医工連携による認知症スクリーニング等に関する研究の説明とともに、アントレプレナーシップ教育の一例として、学生によるギネス記録に認定されたロボット研究やテーマパークの待ち時間・移動時間を予測するアプリ開発の紹介がありました。



インスタントハウスで研究内容の説明を受ける
服部機構長、東管理部長ほか



研究室で説明を受ける服部機構長、東管理部長

6. 留学生懇談会「NITech Global Campus Connect」

2025 年 10 月 22 日（水）に大学会館 1 階 Sky Cafeteria にて、留学生懇談会「NITech Global Campus Connect」を開催しました。

冒頭では小畑誠学長があいさつを行い、国際的な視野の重要性を強調しました。

会場では、日本人学生による海外留学体験の報告や、外国人留学生による出身国・大学の紹介が行われ、展示コーナーでは留学奨学金に関する情報も提供されました。参加した留学生からは「It was very good and nice opportunity to interact with other fellow international students（他の留学生とも交流できるととても素晴らしい機会でした）」との声が寄せられ、異文化理解を深める場として大いに盛り上がりました。

今後も本学では、学生の国際的な成長を支援する取り組みを継続してまいります。

参加者数：（教職員・学生）100 名以上



7. 寄附者へ紺綬褒章の物件伝達

2025 年 10 月 28 日（火）に学長室にて北村典氏へ紺綬褒章における物件伝達を執り行いました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄附した方を対象とするもので、北村氏には、本学のさらなる発展をご支援いただくご意向のもと、奨学寄附金に加え、名工大発ベンチャー応援基金および課外活動団体へのご寄附を賜りました。

小畑誠学長は北村氏に紺綬褒章と章記を伝達するとともに、ご寄附が本学の学生たちにとって大きな励みとなると感謝の言葉を述べました。



8. 名工大テクノフェア 2025

本学の研究者が動画を通し、先端研究シーズを多くの企業の方々に紹介することで、本学との新たな連携を生み出すことを目的として、今年度もオンラインにて開催しています。

日時：2025 年 11 月 4 日（火）公開

開催：オンライン (<https://technofair.web.nitech.ac.jp/>)

内容：

- ・ 研究シーズ紹介
- ・ 連携事例紹介
- ・ 特別講演動画の公開
- ・ 科学技術相談フォーラムの設置



9. 第 63 回工大祭

[第 63 回工大祭](#)を、下記の日程で開催いたしました。

日 時：2025 年 11 月 15 日（土）10：00～18：30、16 日（日）10：00～18：10

テーマ：「be united」

参加者数：約 5800 人



体育館（親子向けゲームコーナー）



2 号館前ステージ

活動予定

1. 特別講演会「街とつながる“わたしたち”のキャンパス」

名古屋工業大学キャンパスマスタープラン更新に際し、小堀哲夫建築設計事務所とともに御器所キャンパスの未来を構想していきます。その関連イベントとして、建築家 小堀哲夫氏による特別講演会を開催いたします。

この講演では、小堀哲夫設計事務所が設計した「東海国立大学機構 Common Nexus」、「梅光学院大学 The Learning Station CROSSLIGHT」などの事例を通して、キャンパスと街とのつながりや、これからの御器所キャンパスのあり方について考えます。

日時：2025 年 12 月 4 日（木）16：30～17：30

場所：名古屋工業大学 NITech Hall

お申込み：<https://forms.office.com/r/5zwMY1y4Pi>

2. 教育研究活動報告会

社会に開かれた大学を目指し、学生、保護者、同窓会、産業会、地域の方々と情報・意識の共有を図りながら、より一層のご理解・ご支持を賜るため、本学の教育研究活動報告会を開催いたします。

詳細につきましては[公式 HP](#)をご覧ください。

日時：2025 年 12 月 17 日（水）15：30～16：15

開催方法：オンライン（Microsoft Teams）

3. ARTFUL CAMPUS 2026 未来共創

名古屋工業大学と愛知県立芸術大学が連携し、F+ART、F+LAB、F+AIR、F+GALLERY の4つのプログラムで築いてきた「ARTFUL CAMPUS」の成果発表として、『ARTFUL CAMPUS 2026 未来共創』を開催します。

日時：2026年1月9日（金）

場所：名古屋工業大学、岡谷鋼機名古屋公会堂

詳細：<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/event/002100.html>

内容：

- ・F+ART アートツアー
- ・F+AIR「音楽らしさ」とはどこからくるのか
- ・F+GALLERY「フッとくるっ展」
- ・F+LAB「MOOD」
- ・愛知県立芸術大学ウインドオーケストラ 第26回定期演奏会

なお、ウインドオーケストラ演奏会に先立ち、両大学の学長を囲みながら、ご来賓の皆様と交流いただける懇親会を設けております。

- ・新春祝賀懇親会

日時：2026年1月9日（金）17：00～17：50（ウインドオーケストラ開演18：45）

場所：名古屋工業大学2号館11階ラウンジ

「新春祝賀懇親会」及び「愛知県立芸術大学ウインドオーケストラ 第26回定期演奏会」ご招待者様専用予約フォームは[こちら](#)です。

教員の受賞

1. 萩原幸司教授、徳永透子助教らの研究グループが第48回日本金属学会技術開発賞を受賞

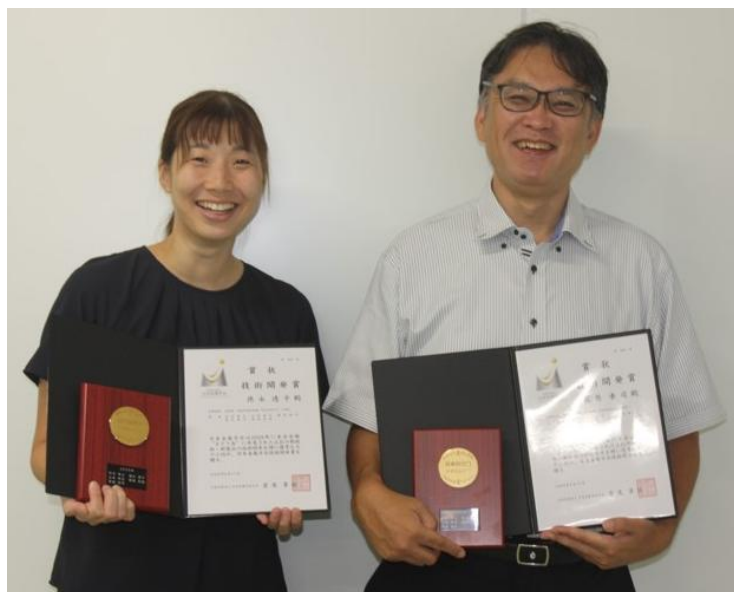
受賞者：物理工学類 萩原幸司教授、徳永透子助教 他

概要：本賞は、創意あふれる開発研究を推奨する目的で、金属工業に関する独創性に富む新技術・新製品の技術開発に優れた実績を収めた技術者に対し贈られるものです。

萩原幸司教授（物理工学類）、徳永透子助教（物理工学類）が所属する[材料組織・塑性制御工学研究室](#)では、コマツ、山陽特殊製鋼、名古屋工業大学の三者共同研究として、我々の社会に欠かすことのできない基盤材料である鉄鋼材料において、700Hv（約 HRC60）という高硬度を保持しつつ、同時に 100J/cm² 以上の極めて高いシャルピー衝撃特性、5%以上の塑性伸びを有するような、従来にない超高強度・高靱性・高延性鉄鋼材料の開発を進めており、2023 年春からは、[「TOUGHFIT®」（タフフィット）](#)という商品名にて、実用化、社会展開が図られています。

本材料の社会普及により、部品の小型軽量化・長寿命化が実現されることでライフサイクルアセスメントが飛躍的に改善し、これにより省エネ・CO₂ 排出量削減・環境改善に大きく寄与することが強く期待されます。

この実績が評価され、今回の受賞に至りました。



学生の受賞

1. アジア基礎造形連合学会 2025 最優秀論文発表賞

受賞者：工学専攻 博士後期課程 ZHANG Jiaxin

受賞対象：「環境造形ワークショップにおける使用素材による類型化及びその比較」

(The Classification and Comparison of Environmental Art Workshops by Used Materials)

概要：[アジア基礎造形連合学会 2025 広州大会](#)はアジアの学者に基礎造形に関する最新の進展を展示・議論する学術交流のプラットフォームを提供することを目的として開催された大会です。

本賞は、2025年9月20日～21日に中国広州美術学院 昌崗キャンパスにて開催された同大会において、優秀な発表を行ったとして、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。



2. 第45回土木史研究発表会 優秀講演賞（学生部門・近世部門）

受賞者：工学専攻 博士前期課程 環境都市プログラム 弓場翔太

受賞対象：「矢作川河川敷木杭列の年代推定と矢作川架橋の歴史について」

概要：土木学会の[土木史委員会](#)が会員の独創的な調査・研究成果を発表する場として土木史研究発表会が開催されました。

本賞は、2025年6月21日～22日東京科学大学・大岡山キャンパスにて開催された同発表会において、優秀な講演を行ったとして受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

3. 第47回日本コンクリート工学年次大会 年次論文奨励賞

受賞者：工学専攻 博士後期課程 田中大貴

受賞対象：「ランダムフォレストによる機械学習を用いた外壁タイル張り仕上げの剥離診断」

概要：[コンクリート工学年次大会](#)は、毎年1回（3日間）開催され、多分野のコンクリートの研究者や技術者が全国から集まり、研究成果の報告と質疑応答などを通して活発な情報交換を行っています。

本賞は、2025年7月16日～18日にアイーナ（岩手県民情報交流センター）にて開催された同大会において、特に優秀な講演として認められ、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

4. 2025 年電気学会 産業応用部門論文賞

受賞者：工学専攻 博士後期課程 渡邊湧也

受賞対象：「Vibration Suppression of Cantilever Using Piezoelectric Actuator Through Optimal Design for Actuator Position and Control Parameters」

概要：[2025 年電気学会産業応用部門大会](#)は例年、大学や高専などのアカデミア関係者と企業関係者がほぼ半数ずつ参加する、ユニークな大会です。

本賞は、2025 年 8 月 19 日～21 日に徳島大学 常三島キャンパスにて開催された同大会において、優秀な論文と認められ、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

5. 第 36 回日本基礎造形学会 若手新人作品賞

受賞者：工学専攻 博士前期課程 建築・デザインプログラム 中野葵

受賞対象：「CATIO 一分かち合う机」

概要：[第 36 回日本基礎造形学会 香川大会](#)が「アートプロジェクト×教育×基礎造形」をテーマとして開催されました。

本賞は、2025 年 8 月 23 日～24 日に高松市美術館／サンポートホール高松にて開催された同大会において、優秀な作品として認められ、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

6. 第14回フッ素化学若手の会 優秀ポスター賞

受賞者：工学専攻 博士前期課程 生命・物質化学プログラム 太田響喜

受賞対象：「金属ナトリウム分散体を用いた穏和な条件での PFAS 類の脱フッ素化」

概要：[フッ素化学若手の会](#)は、フッ素化学に携わる産官学の若手研究者や次世代を担う学生が学び、交流を深めることを目的として開催される会です。

本賞は、2025 年 9 月 3 日～4 日に和歌山県休暇村紀州加太にて開催された同会において、優秀なポスター発表を行ったとして、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

7. 第53回繊維学会夏季セミナー ポスター発表奨励賞

受賞者：工学専攻 博士前期課程 ソフトマテリアルプログラム 山中莉空

受賞対象：「セルロースナノファイバー充填ポリブチレンアジペートテレフタレート複合材料の調製と表面処理の効果」

概要：繊維学会では毎年[夏季セミナー](#)を行っており、本賞は、2025 年 9 月 4 日～5 日に別府国際コンベンションセンターにて開催された同セミナーにおいて、優秀なポスター発表を行ったと認められ、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

8. 第19回分子科学討論会 分子科学会優秀ポスター賞

受賞者：工学専攻 博士前期課程 生命・物質化学プログラム 新井想空

受賞対象：「霊長類青視物質の短波長特異性を支えるレチナール結合部位の構造基盤解明に向けた分光研究」

概要： [第19回分子科学討論会](#)は、広く「分子科学」に興味をもつ研究者が集まり、最新の研究成果を発表し、活発な議論を行う場として毎年開催されています。

本賞は、2025年9月9日～12日に広島国際会議場にて開催された同討論会において、優秀な発表を行ったとして、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

9. 生体医工学シンポジウム ベストポスターアワード

受賞者：工学専攻 博士前期課程 機械工学プログラム 浦越健太
同 剣持唯舞

受賞対象：浦越健太「音響インピーダンス測定における異方性の影響～配向したコラーゲンゲルによる検討～」
剣持唯舞「発達期ラット心筋に対するスライス培養系の確立の試み」

概要： [生体医工学シンポジウム 2025](#)は生体医工学の最先端の研究成果を共有し、若手研究者の本分野への勧誘、異分野の研究者との交流を促進することを目的に毎年開催されています。

本賞は、2025年9月12日～13日に山梨県立図書館にて開催された同シンポジウムにおいて、優れた研究・発表を行ったとして、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

10. 日本鉄鋼協会第 190 回秋季講演大会学生ポスターセッション奨励賞

受 賞 者：工学専攻 博士前期課程 材料機能プログラム 佐藤優磨
松隈龍騎

受賞対象：佐藤優磨「高強度高延性高炭素鋼の均一伸びに対する焼戻し温度の影響」
松隈龍騎「Fe-Ni-Al 合金における B2 相析出粒子が薄板状マルテンサイト組織におよぼす影響」

概要： [日本鉄鋼協会第 190 回秋季講演大会](#)では、多くの学生に講演大会参加と発表の機会を提供するため、学生ポスターセッションが行われました。

本賞は、2025 年 9 月 17 日～19 日に北海道大学札幌キャンパスにて行われた同大会において、審査員の投票により優秀と認められ、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

11. 第 63 回日本生物物理学会 学生発表賞、IUPAB 奈良記念学生発表賞

受賞名・受賞者・受賞対象：

＜第 63 回日本生物物理学会 学生発表賞＞

工学専攻 博士後期課程 犬飼紫乃 「クラゲロドプシンにおける特異な構造変化が示す Gs タンパク質活性化の作用メカニズム」

工学専攻 博士後期課程 水野陽介 「紫外光吸収型色覚視物質の構造的洞察」

工学専攻 博士前期課程 水野萌香 「M2 および M4 ムスカリン受容体のサブタイプ選択的活性化に関する赤外分光解析」

＜IUPAB 奈良記念学生発表賞＞

工学専攻 博士後期課程 犬飼紫乃

概要： [第 63 回日本生物物理学会年会](#) は、最新の研究成果を発表・議論し、研究者同士の交流を深めるために毎年開催されています。

本賞は、2025 年 9 月 24 日～26 日に奈良県コンベンションセンターにて開催された同会において、優秀な発表を行ったとして、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

12. 第 73 回レオロジー討論会 優秀ポスター発表賞

受賞者：工学専攻 博士前期課程 機械工学プログラム 加古直樹

受賞対象：「一軸伸長流動下における CTAB/NaSal 水溶液の応力光学係数に対するモル比およびミセル総量の影響」

概要：日本レオロジー学会により、[第 73 回レオロジー討論会](#) が開催されました。

本賞は、2025 年 10 月 14 日～16 日にアオーレ長岡にて開催された同討論会において、優秀なポスター発表を行ったとして、受賞したものです。

受賞者の研究概要については、[こちら](#)をご覧ください。

研究成果

1. 林幹大助教らの研究グループによる研究成果が、国際学術誌「[Nature Catalysis](#)」に掲載されました（2025 年 10 月 24 日掲載）。

生命・応用化学類 林 幹大助教らの研究グループは、ルイス酸の一種である TIPSOTf と塩基の一種である DABCO の協奏触媒系を用いた新たな反応設計により、反応性に乏しいアミドやエステルを直接的に重水素化できる触媒反応の開発に、世界で初めて成功しました。この手法は、温和な条件下で進行し、複雑な分子構造を持つ化合物にも対応可能であり、重水素化合物へのアクセスを容易にする新たな合成基盤を提供します。

本研究グループは、ルイス酸と塩基という性質の異なる 2 種類の触媒を組み合わせることで、カルボニル化合物を事前に活性化することなく、アミドおよびエステルの特定部位に重水素を導入する手法の開発に成功しました。（図 1）

本反応は天然物や医薬品に加えて、これまで重水素導入が困難とされてきたペプチドやポリマーへの適用にも成功しています。さらに、ルイス酸と塩基が付加体を形成することなく、互いに独立して高い反応性を保ったまま「フラストレーティッド・ルイスペア（FLP）」として機能していることが明らかになりました。今回開発されたアミドとエステルの触媒的軽水素化法により、多様な重水素化合物を迅速かつ効率的に合成することが可能となり、今後、低分子から高分子まで幅広い機能性分子への応用が期待されます。

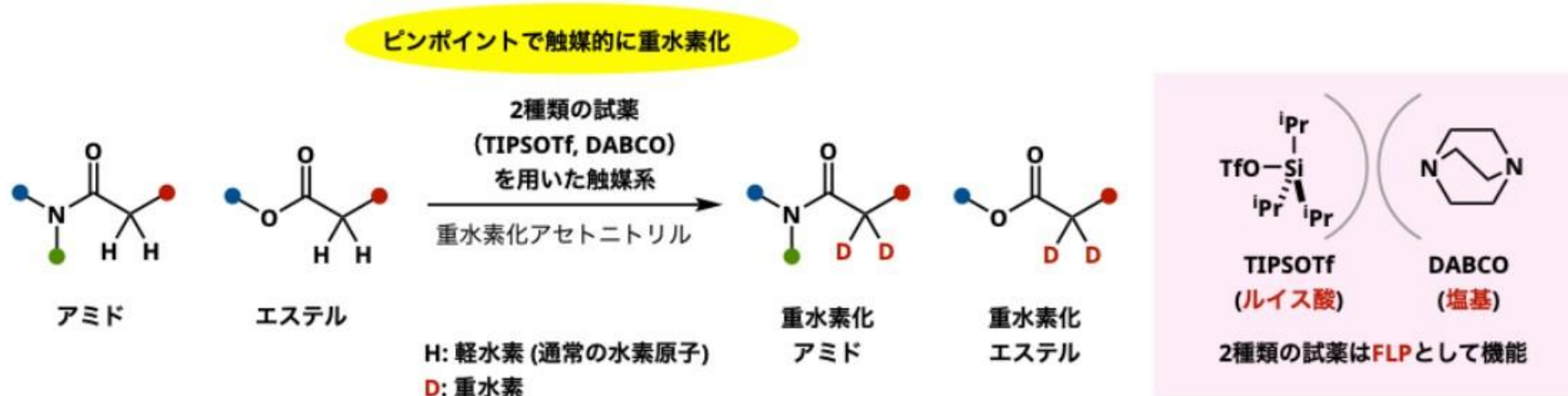
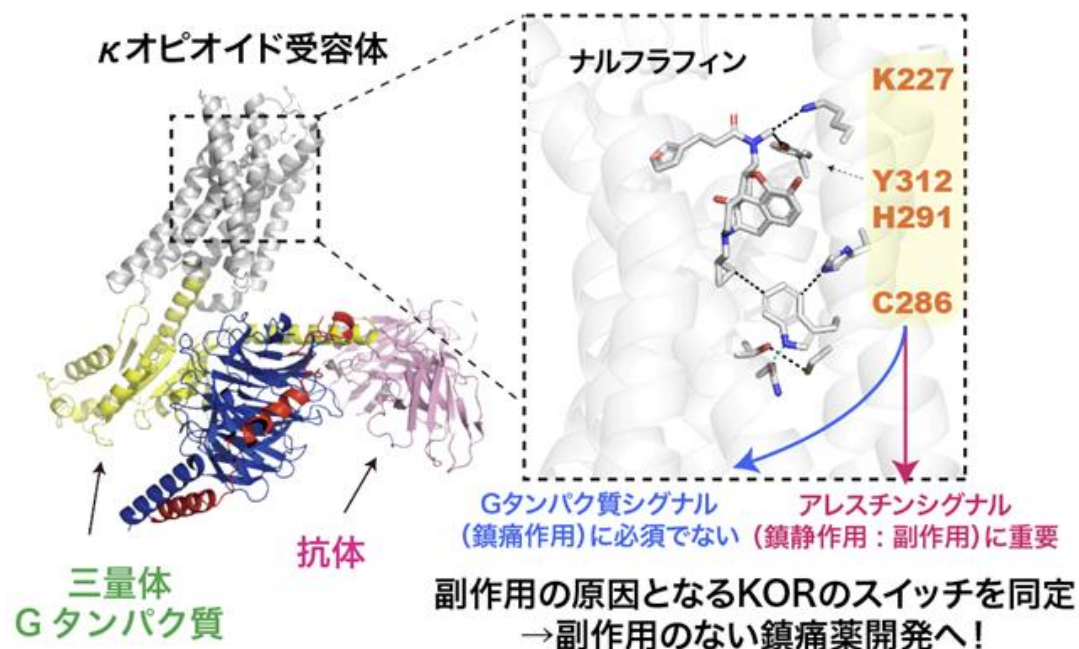


図 1. 本研究の合成スキーム

2. 片山耕大准教授、神取秀樹特別教授らの研究グループによる研究成果が、国際学術誌「[Nature Communications](#)」に掲載されました（2025 年 10 月 28 日掲載）。

生命・応用化学類 片山 耕大准教授、神取 秀樹特別教授らの研究グループは、ヒト κ オピオイド受容体のバイアスドシグナリング機構を従来より詳細に解析し、新たにシグナル選択性に関与するアミノ酸残基を同定しました。

本研究では、 κ オピオイド受容体（KOR）のバイアスドシグナリング機構を分子レベルで詳細に理解することを目的とし、構造生物学・分光学・薬理学・計算科学を融合した多角的解析を行いました。具体的には、クライオ電子顕微鏡単粒子解析（Cryo-EM SPA）により 2 種類の作動薬（ナルフラフィン、U-50, 488H）結合型 KOR-Gi タンパク質複合体の高解像度構造を決定し、結合様式の違いを明らかにしました。さらに、全反射赤外分光法（ATR-FTIR）を用いて薬剤結合に伴う動的構造変化を検出し、薬理的解析によりシグナル選択性に関与する 4 つのアミノ酸残基（K227、Y312、C286、H291）を同定しました。加えて、分子動力学（MD）シミュレーションを用いて、これらの残基がシグナル分岐に果たす役割を原子レベルで検証しました。これらの統合的解析により、KOR における「良い作用」と「副作用」の分かれ道を構造的・機能的に可視化することに成功しました。



本研究の概要図